

教育目標		本校の教育は、法に定められた根本精神と本県学校教育の指導方針に基づき、豊かな人間性や社会性を培うとともに、科学的な思考力と創造性を身につけ、科学技術の発展と進歩に寄与する、心身ともに健全な人間の育成をめざす。						
運営方針		あらゆる機会(Chance)を生かし、自分を変革し高め(Change)、粘り強く挑戦する(Challenge)生徒の育成をめざす。						
平成25年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標				
SSH指定研究を軸に、「探究科学」の成果を各学会において発表をする等の実績を着実に積み上げつつある。しかしながら、自主的に根気強く問題解決に取り組む等については不十分さが見られる。これらの力を育成し、併せて規範意識の高揚、部活動など生徒の活動の活性化が引き続き課題である。		教科指導力を高め、ねらいを明確にした授業及び指導法の研究・実践に努め、生徒の基礎学力の定着と応用力の向上を図る。		自宅学習の定着をめざし、基礎学力とともに高度な学力を計画的に育成する。また、指導法や評価について指導主事の招聘や教育研究所の講座を活用し積極的に研修に努める。				
		スーパーサイエンスハイスクール研究開発課題に沿って、理数科専門高校としての特色ある教育プログラムを研究・開発し、定着と改善をめざす。		探究活動の充実、大学・企業との連携、研究施設等の見学、臨地実習等で本物に触れる体験活動を定着する。外部講師招聘による課題別研修や研究発表会を実施し、科学オリンピック等への出場をめざす。				
		中学生の特徴・気質を早く理解し、将来を展望した魅力と特色ある学校づくりをめざす。教職員各々のもつ特性を生かして、中高一貫教育を展望した特色ある学校づくりに努める。		6年間を見通した中高一貫教育の内容を明確にし、月1回の保護者会、週1回の学級通信の発刊などの他、学校だよりの発行、Web Siteの充実等による積極的な広報を展開する。				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 及び改善方策
学習活動	併設型中学校の教育課程等を魅力と特色あるものにする。	年間を見通した中高一貫教育の内容を明確にし、適切で中・高連携した年間学校行事を計画する。付随する様々なものを整える。	B	B	B	中学校担当者と協力し、魅力的な行事を手探りの状態で実施してきたが、効果はあったと考える。	学習指導計画及び評価規準など、さらに効果が上がるように検討を加えていく。	高校においても観点別評価をするよう県教委からの指示がある。青翔中学1期生が高校に入学する平成29年度から実施できるよう、観点別評価を教職員に浸透させるための研修会を持つ必要がある。
	指導法の研修・実践に努め、指導力の向上を図る。	授業公開や研究授業を実施し、研修を深めるとともに、情報の共有化と共通理解を図る。 中学生への授業の教材研究や指導法、評価法について研修に努める。	B	B		初任者研修は様々な形態で実施された。中学生への授業は、各担当者が指導法や評価法を工夫、研修を重ねて取り組んでいる。	中学生への指導法や評価法については、更なる研修が必要であろうと考える。	
	生徒の基礎学力の定着と応用力の向上を図る。	個別指導、学力補充講座等を実施し、生徒個々の基礎学力を高める。 生徒実態を把握し、自宅学習の定着(毎日自宅学習をする生徒70%以上)をめざす。	A	B		日々の授業の充実に加えて長期休業中の学力補充も実施し基礎学力の定着に努めた。毎日自宅学習する生徒は高校生が67%、中学生が95%であった。	より興味の持てる授業を実践し、毎日学習する生徒の割合を増やすことにより基礎学力を定着させる。	
生徒指導	生徒自身が誇りを持てる学校づくりをめざす。	校門指導・昇降口指導・校内巡視などを通じ、生活態度の見直しと規範意識の啓発を図る。また、時間厳守の精神、挨拶の励行など、生活習慣の確立と充実を図る。	A	A	A	問題行動や特別指導は激減し生徒たちは落ち着いた学校生活を送っている。現状に甘んずることなく、生徒たちにとって誇らしく地域の中で愛される学校作りをめざす。	教師間の情報交換や保護者との連携を効果的に行う。初め対応に際しては、迅速かつ慎重を期す必要がある。	強制してさせるのではなく自発的にやる生徒指導を目指し、生徒に生き方を考えさせる生徒指導であってほしい。
	中1から高3までの生徒が安心して登校し、生活できる学校をめざす。	交通安全教室・薬物乱用防止教室・着こなしセミナー等を開催し、人間の在り方・生き方を考える機会をもつ。	A	A		中学校の併設に伴い落ち着きや自覚が生まれた。ただ、LINE等のアプリによるトラブルも散見した。	普段から目配り・心配りを心掛け、小さな変化に対しても迅速に積極的な声掛けを行う。	中学生を迎えて事前には種々の懸念もあったがマイナス面よりプラス面が多かった。引き続き厳しくもかつ温かい指導を継続してもらいたい。
		人権教育部と連携し、生徒の悩みを積極的に・共感的に受け止め、これに応える指導や助言を与える。	B			いじめアンケートや体罰調査では深刻なケースは報告されていない。	朝夕の校門指導・昼休みの校内巡視・定期的な校外巡回指導などを生徒指導部だけでなく全校体制で行っていききたい。	
教員と生徒の人的ふれあいを密にし、生徒一人一人の個性・特徴を生かし、大切に育て、内面に迫る指導を心掛ける。	A	今年度から朝の校門指導を全校体制で行った。生徒たちの表情と内面の変化を早期に捉えることができた。						
進路指導	個々の生徒の個性の伸張に努め、意欲的に進路実現をめざせる環境づくりに努める。	校種や学年の目標に沿った進路指導を実施し、生徒のやる気を引き出す指導に努める。	A	A	B	2年生2月の講演会を自分の進路をより具体的に考えられるように実施した。	生徒が学力を向上させて進路目標を達成させるには、生徒個々の学習意欲の高揚が必要である。受験サプリの利用を校内でも時間を決めて行い、教員のサポートを増やす。	国公立大学を狙うには本校の特性を生かしたAO入試や推薦入試が有利。推薦入試を中心に小論文を課せられる学部の受験希望者を対象に講座を設定し継続的に全体指導をしていくことが大切である。
		各種進学補習や校外模擬試験、受験サプリ等を実施し、学力伸張の場の充実に努める。	A			校内で実施するものには主体的に参加できたが、家庭での学習時間が短い。		
	進路資料等の整備・充実を図り、進路実現に向けての環境づくりに努める。	B	国公立大学等の資料の充実を図った。生徒の利用をさらに促す必要がある。			S SHの取組の成果が進路先に現れてきた。来年度は4月段階で国公立大学受験の職員研修等の時間をとり、早期サポートを行う。中学生への基礎学力定着とキャリア教育の充実をめざす。		
	理数科単科高校としての特色を活かした進路指導に努める。また、中高一貫を念頭に、6年間を見通したキャリア教育を推進する。	本校独自の教育活動で身につけた科学的・数学的な力量を活かせる進路指導に努める。	A			B	各種コンテストなどにも参加、探究科学の研究内容をまとめて、推薦入試を受ける生徒が増えた。	合格人数は目標の6割であったが、国公立大学を受験する生徒が多くなった。中学1年に対して協力しながら指導ができた。指導内容の具合化が課題である。
国公立大学や難関私立大学の理数系学部への合格者を20人以上にする。	B							
中高一貫教育校として、発達段階に応じた6年間のキャリア教育を推進する。	B							

A：十分である

B：ほぼ十分である

C：あまり十分でない

B

保健体育	体育活動をとおし、健康の意義を踏まえ、健康の維持増進、体力づくりを基盤に「生きる力」を育む。	運動・スポーツに主体的に取り組むことにより、自らの健康を維持できる実践力を育てる。	A	A	A	各行事に関しては教師側の指導が先行し、自主性を引き出せなかったが、生徒は積極的に参加し活動できた。ほとんどの生徒は指導に従うが、その反面、受動的にしか行動できない生徒も多い。	生徒に自主性が育つ指導が求められる。計画から実施に至る運営にもっと関わらせることで充実感・達成感を体験させることが必要であると考えられる。	体育大会、球技大会については、中学生の種目及び競技方法を検討してほしい。
		協調と責任ある行動をとれるよう中・高1年の集団行動を徹底する。また、2・3年生の主体的かつ能動的な取組を促す。	A					
	保健活動をとおし、何よりも「健康」であることの大切さを自覚し、自らを改善していく資質と能力を育む。	各種の健康診断の受診率100%を目標に日程や時間帯の調整を図る。 生活実態調査や健康だより等により、随時健康管理を促すとともに各検診の完全受診を促す。また、食育を含むアドバイス・個別指導の充実を図る。 各種感染症への迅速な対応、カウンセリングの推進・充実を図り、心身のケアに努める。	B B B	B				
人権教育	様々な人権問題についての認識を深め、より充実した実践に努める。	教職員が共通理解を持って人権教育に取り組む体制を構築するため、年2・3回の職員研修を実施する。 生徒の実態に即した人権LHRを企画・立案し、その実践に努める。	B A	B	B	「青翔高校のスクールカウンセラー活動」をテーマに職員研修を実施し、個々の生徒に応じた支援に取り組めた。 身近な問題の人権LHR教材を作成し、人権意識の高揚を図ることができた。	生徒の人権意識のより一層の高揚を図るために行事やLHRを工夫するとともに、日常の教育実践に生かす。	LHRの時間設定をテーマ内容によって工夫したい。 中学生についての人間形成や発達障害についての研修も必要である。
	支援が必要な生徒を支える学校の体制づくりを強化するとともに、カウンセリングを充実し、生徒理解と支援に取り組む。	面談や中学校訪問、さらに、家庭訪問等、日々の活動をとおして課題を抱える生徒への早期の対応を進める。 特別支援教育についての研修を深める。スクールカウンセラーや生徒指導部と連携して不登校傾向のある生徒や支援を必要とする生徒等のケアや支援に努める。	B A			B	収集した生徒の情報やカウンセリングの現状を共通認識することにより、個々の生徒に応じた適切な支援に努めた。 スクールカウンセラーと特別支援教育、コーディネイターとの連携を密にし、他分掌とも連携してある生徒や支援を必要とする生徒等のケアや支援に努めた。	学級担任・各学年・他分掌との連携を緊密にし、教育相談活動のより一層の充実を努める。
	読書指導の充実を図る。	年8回の「図書館だより」の発行等、図書委員活動の活発化を図る。 学級文庫配置のほか、図書室に「テーマによる展示コーナー」を設ける。	A B	A		A	図書だよりは、おもに図書委員のお薦め文庫の紹介が生徒には好評であった。 図書文化講座で「お話し会」を設けるなど、生徒の読書活動の活性化を図った。	中学生に対する読書の必要性から考えて、読書タイム・一斉読書の復活を考えたい。
文化図書	文化祭をとおして、文化教育の充実と活性化を図る。	文化委員会の活性化を図る。できるだけ生徒の意見を企画・運営に反映させながら、生徒自らが作り上げていく文化祭をめざす。	A	A	A	発表内容から、クラスの統率力・団結力が感じられるようになり、全体的にまとまりのある文化祭に仕上がった。	今以上に工夫を凝らし生徒に達成感を持たせる指導が必要である。	発表内容からクラスの団結力が感じられるようになっていく。
	環境整備	自主的な清掃活動を推進し、生徒の美化意識向上を図り、学校環境の美化を推進する。	ゴミの持ち帰り等のゴミの減量化や分別の徹底、リサイクル運動に取り組み、環境美化の意識を深める。 年3回通学路清掃で、生徒の美化意識の向上を図り、地域との関わりを一層深めていく。	B A	B	B	教室のゴミの分別を徹底し自主的に教室・廊下のゴミを拾うなど、少しずつ生徒の美化意識が高まっている。 各委員会に加え、各クラブ、中学生、生徒会が通学路清掃に参加した。	「地球温暖化」などに関するビデオを視聴させ、「環境にやさしい視点で、自分に何ができるか。」を、まずは考えさせたい。
渉外	育友会活動の充実と活性化を図る。	広報活動の充実と研修会等の活性化を図り、保護者との連携を密にして育友会行事への積極的な参加を促進する。	A	A	A	体育大会や文化祭で様々なイベントに参加してもらうことで、交流が深まり、学校教育に良い影響を及ぼしている。	育友会活動をスムーズな運営に向けて、次期役員決定、引き継ぎの方法を検討する。	
	創立10周年記念事業の企画・運営を行う。	記念誌・式典などの創立10周年記念事業を、同窓会と教員組織との連携をとって企画・運営を進める。	A	A	A	式典では、「青翔高校ができた経緯を在校生・教職員が再認識する。」というテーマで運営を行った。	まほら会役員の方々の世代交代を少しずつしていく必要がある。	
理数SSH	SSHの研究開発をさらに推進する。	SSH研究開発を、中学校も含めSSHの取組を全校体制で行い、その成果を授業に生かせる基盤を確立する。アンケートの他、運営指導委員等による評価で8割以上からSSH事業がプラスになったとの回答を得る。	B	B	B	探究科学では生徒の研究内容及びプレゼンテーション能力が格段に向上した。SSHの学校設定科目については、ほぼ目的の研究結果を収めることができたが、全教科の取組までには至っていない。	SSHに関わる教員向けの研修会を増やし、我々教員の意識の向上を図りたい。また、SSHの成果の全国普及・全県普及を、より一層推進する。	SSHの指定を受けて4年が経過し、成果も徐々に上がってきていると聞いている。来年度の再申請に向けて頑張ってもらいたい。
	グローバルな視点に立って物事を考える力を育成する。	タイやハワイへの研修をとおして、英語検定の受検者を昨年度の1.5倍に増加させる。	A			A	共同研究はメールやスカイプを用いて順調に行えた。英語検定の受検者は昨年度の1.8倍に激増した。	英語科教員と協力し、生徒の英語によるコミュニケーション能力を向上させる。
	探究科学などの成果の全国的な普及を図る。	各種科学技術系コンテストにおいて、出品数・入賞数とも昨年度の5割増しをめざす。各種学会のジュニアセッションで年間10本以上の発表を行う。	A	A		学生科学賞奈良県審査では学校賞など数々の賞をいただいた。学会へは、延べ67名の生徒が年間21本の発表を行い、目標を大幅に上回る成果であった。	今後も各種学会やコンテストに生徒を積極的に参加させる。	

A：十分である

B：ほぼ十分である

C：あまり十分でない